

「木造を最強にする」

性能当たりの単価を低く



渡辺 滄氏

「木造を最強にする」と話すのは渡辺滄氏(渡辺治建築都市設計事務所所長、川崎市)だ。その意味は、性能当たりの単価を下げることで可変性を持たせ、必要に応じて用途変更ができるように設計する。例えば1間ピッチに柱を立てると基礎が通常のベ

タ基礎で済んだり、延べ床面積500平方メートル以下でもあえて構造計算を行い壁量が少なくても済むように設計する。

東京都調布市で建設

渡辺氏はRC造やS

造などの建築設計にかかわるなかで、木造が性能に比べて安価であることに気付いたとい



発行所 日刊木材新聞社
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4
編集・営業 ☎03-3820-3500
FAX03-3820-3519
総務・販売 ☎03-3820-3511
FAX03-3820-3518

http://www.n-mokuzai.com/
eメール info@n-mokuzai.com
購読料 1ヵ月 6,200円

©日刊木材新聞社 2016

本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。

記事の森から
世界が見える

木村建研ワイワリー
Japan Lumber Reports



根太工法で奥行き39層の大空間を実現した

架材を入れ、平角柱(105×240ミリの角をルーターで削り、合板の受け材として使用する。)

現在はこの根太工法(91ピッチ)をさらに進化させ、間立で、2口方向の壁を少なくし、階根太に105×27ミリの構造用集成材をトで建設できるように取り組んでいる。

した調布白菊幼稚園で「根太工法」という。2階床には24ミリの構造用合板を使用して床の剛性を確保し、フラットトを下げた。奥行き方向(桁行方向)には横桁行方向の壁は3×9の組み合わせを続けている。